短　報

と畜検査における羊の眼房水からの血漿生化学値の推定

畑　大二郎[†]　岡田純子　堀川朝広　小川みづほ
森谷　毅　久保田耕史

長野県松本食肉衛生検査所（〒390-0851　松本市大字島内9839）

（2022年5月31日受付・2022年8月31日受理・2022年10月14日公開）

本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/75/10/75_e186/_article/-char/ja

要　約

羊のと畜検査における尿毒症と黄疸の数値的裏付けとして，眼房水が血液の代替検体になり得るか調査した．と畜場に搬入されたサフォーク種（*Ovis aries*）61頭の血漿と眼房水を用いて，各生化学値（尿素窒素，クレアチニン，総ビリルビン）の測定後に相関分析と回帰分析を行った．すべての項目で測定値は血漿の方が眼房水よりも高かった（$P<0.05$）．尿素窒素では，去勢群と雌群で共に高い相関係数と決定係数が認められた．クレアチニンでは，去勢群で高い相関係数と決定係数が認められた．総ビリルビンでは，相関関係が認められなかった．以上のことから，採血困難時には，眼房水を用いて羊の尿毒症を推定評価できるが，雌では精度の高いクレアチニン推定値を得にくいと考えられた．また，眼房水を用いての黄疸評価はできないと考えられた．
――キーワード：眼房水，血漿，羊．
日獣会誌　75，e186～e190（2022）